

令和6年度 全国学力・学習状況調査 横浜市の結果（概要）をお知らせします

令和6年4月18日に横浜市立小学校6年生（約2万8千人）、中学校3年生（約2万3千人）を対象に実施された全国学力・学習状況調査の各教科に関する結果と児童生徒質問調査及び学校質問調査に関する結果の概要をお知らせします。

◎ 各教科の調査結果から見る横浜市の状況

- 調査結果においては、全国の平均正答率と比べ、高いか同等の状況です。
- 小学校の算数、中学校の数学において、全国の平均正答率に比べ、2ポイント高い状況が見られました。

【平均正答率（%）】

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
横浜市	68	65	59	55
全国との差	±0	+2	+1	+2
神奈川県	67	64	59	54
全国	68	63	58	53

※ 全国の平均正答率については、文部科学省の指示のもと整数値に直して表しています。

※ 横浜市、神奈川県、全国の値は、公立学校の平均正答率です。

◎ 各教科で顕著な結果が見られた設問

※全国の平均正答率との差が顕著なものを表記しています。

【中学校】

数学 「連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができる」が12ポイント高い。

国語 「文の成分の順序や照応について理解している」が5ポイント高い。

【小学校】

算数 「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる」が7ポイント高い。

国語 「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる」が3ポイント高い。

「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる」が8ポイント低い。

◎ 児童生徒質問調査、学校質問調査の結果を踏まえた分析

- 児童生徒質問調査の「前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の質問に肯定的に回答した児童生徒の割合が、小学校では全国の68%に対して横浜市は70%と2ポイント高く、中学校では全国の65%に対して横浜市は71%と6ポイント高くなっています。

各教科の調査結果が全国の平均正答率と比べ、高いか、同等の状況となった要因としては、各学校が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んできたことが考えられます。

- 学校質問調査の「調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」の質問に、「ほぼ毎日」「週に3回以上」と回答した学校の割合が、小学校では、横浜市96%（昨年度93%）に対して全国96%（昨年度91%）であり、中学校では、横浜市87%（昨年度73%）に対して全国91%（昨年度87%）でした。
小・中学校共に昨年度よりもICT機器の活用が確実に進んでいることが分かります。

お問合せ先

教育委員会事務局教育課程推進室長 丹羽 正昇 Tel 045-671-3723